地域と共に歩んでいくこと

福井県福井市　一乗生活学校

福井市内よりバスで東部の山間地に行くと、自然豊かな谷に守られ、美しい川が穏やかに流れている場所にたどり着く。ここは、１４６７年の応仁の乱をきっかけに朝倉孝景が本拠地にし、以来１０３年にも渡って北陸の小京都として繁栄した、一乗谷朝倉氏遺跡がある一乗地区。そんな歴史的な場所で、長く地域の環境問題に取り組んできた地域活動団体がある。それが、今回取材した、一乗生活学校だ。

一乗地区は、７つの町内を集めた総称で、一乗谷川の清流に沿って南北に細長く伸びており、周囲は自然豊かな里山に囲まれている、とても美しい中山間地だ。現在は約２０５戸で人口は６６０人程度である。この地域で地域活動を昭和56年から行っている一乗生活学校は、主に環境問題について積極的に取り組んでいる。まだ市では行っていなかったペットボトルの回収について地区民に働きかけ地区内回収を提案、そして、地域の自治会連合会の協力を取り付けて月2回の回収と選別作業を平成8年より実施。これがきっかけで、平成10年からは市が回収することになり、一乗生活学校の取り組みが高く評価された。また、一乗地区にある一乗小学校の児童と共に、平成11年から平成16年まで、一乗谷川の水生生物の調査を通じての環境学習。平成16年から平成20年まで、味噌づくり・きびの栽培から団子と、かりんとう作り。また同時期からは米のとぎ汁発酵液作りを行い、地域の環境を大切にする取り組みを現在も行っている。

環境への取り組みについて、一乗生活学校の代表をして

いる高岡澄江さんは、「一乗谷川は上流にある。ここを綺麗にすることで、下流や海が綺麗になる。そして、清らかな川・澄んだ空気・安全な食・住みよい町を次世代に繋げていきたい」とのこと。現在では、環境への取り組みの他にも、次世代の子どもたちへの支援として、放課後児童への食の支援も行っている。

そんな一乗生活学校の活動を知るために、私たちは一乗小学校の中で行われている放課後児童クラブへのおやつづくりと配布の取り組みを取材した。

活動日当日の12時。生活学校のメンバーが続々と一乗公民館に集まってくる。一乗公民館は、1952年に当時の一乗谷村の公民館として創立され、現在も子どもから高齢者までを対象にした事業が行われている。一乗生活学校が昭和56年に出来てから、この公民館でずっと活動を続けてきた。公民館にとって一乗生活学校は、「地域の中で多くの方に認知されている。公民館の取り組みにも積極的に参加してくれて頼もしい」と主事をされている伊與さんは語る。その調理室では、地域の子どもたちのためのおやつ作りが始まった。この日のおやつは生活学校のメンバーそれぞれの畑で採れたさつまいもとかぼちゃ、じゃがいもを持ち寄り、カップケーキとフライドポテトを作る。生活学校の皆さんは、手際良くどんどん作業を進めていた。

オーブンからほのかに甘い香りがし、じゃがいもが揚がる軽やかな音が聞こえてくる。美味しく出来たおやつを公民館のすぐ近くにある小学校へ持っていく。一乗小学校で

開かれている一乗児童クラブは、全校生徒17人のうち16人が参加している。この日は、13人が参加していて、その中には、生活学校のメンバーのお孫さんもいる。15時になると、子どもたちが一乗児童クラブの教室に集まってくる。席に着き、生活学校の皆さんから挨拶があり、みんなで「いただきます」。出来立てのおやつに、子どもたちは夢中になっていた。一乗児童クラブの運営委員長である脇野さんは、4年前から続く放課後児童クラブへの食支援の取り組みについて、「今までは、買ったおやつしか提供できていなかったが、この取り組みにより、地域の方々の手作りのおやつを提供してもらえるのは、とてもありがたい」と話してくれた。

44年にも渡り、この地域で活動し、環境問題を中心に地域の幅広い課題に向き合ってきた一乗生活学校。メンバーの皆さんに地域活動を長く続けてこられた理由を聞いてみると、「家に閉じこもっているよりも、みんなでワイワイ楽しみながら、地域について学んで、地域に少しでも貢献できるのが嬉しい」と返ってきた。

平成10年、近所の方から「地域の課題を調査しながら、みんなでワイワイしながら活動するのが楽しいよ」と誘われて生活学校に入った代表の髙岡さんに、一乗生活学校の取り組みで大切にしていることを伺うと次のように答えてくれた。

「地域があって私たちがある。地域の方々と一緒になって、地域の課題を解決し、地域と共に生きていきたい」。